

沿革

協立自動車工業

創業者について

創業者中込協男は、甲府工業夜間高校に通いながらオートバイ販売会社山梨トーハツ販売に就職、国家整備士資格を取得しながら、二輪整備士として下積み時代を過ごす。

山梨トーハツの番頭として一般業務をこなす傍ら、日常業務が終わると山梨トーハツ販売店ライダーの専属メカニックとして、スクランブラー（現在で言うモトクロスレース車両）の競技車両の整備や2サイクルエンジンの改良やレース用2サイクル混合燃料の開発など行い、玉幡飛行場跡地での走行試験で試運転役を務め、各地レースに同行などする。

山梨トーハツがメーカーである東京発動機より依頼された、トーハツランペットによる富士山登頂性能試験にも整備士と補助役として参加、二輪整備士としての重要な職務を行う。

計画は吉田口より登山道を登り登頂してお鉢めぐりをして宣伝用の写真を写すことであったが、八合目まで到達するも失敗に終わるが、自力下山するなどその性能をアピールしたとの事。



山梨トーハツ販売時代の創業者



スクランブラー競技車両整備



千曲川トライアルレース



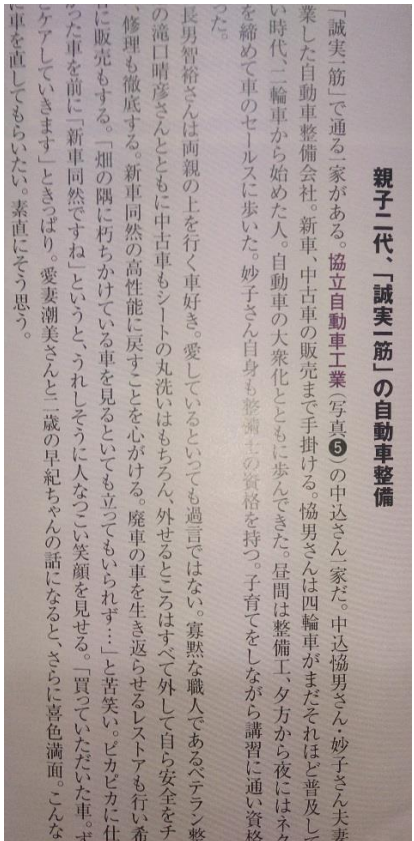


トーハツ富士山登頂性能試験

<p>創業者について</p>	<p>後に四輪のモータリゼーションの流れに乗って山梨トーハツ販売系列会社の山梨自動車産業で四輪自動車の経験も積み四輪自動車の整備士としても重要な職務に就くこととなる。</p> <p>このころよりスズキ自動車株式会社と係りを持つようになる。</p>	 <p>山梨自動車産業時代</p>
<p>創業 昭和 48 年 3 月</p> <p>同 6 月</p>	<p>山梨県中巨摩郡敷島町中下条 1160（現在の甲斐市）に屋号：「協立自動車整備工場」を創業、自動車販売・整備業務をしながら認証取得を目指す。</p> <p>小型自動車分解整備事業の認証を受ける。認証番号 8-823 2 級整備士 1 名 その他工員 1 名</p>	 <p>創業者、中込協男と妻妙子</p>
<p>昭和 53 年 12 月</p>	<p>認証制度の改正により国家整備士の必要最低人数が二名に増加したことに対応するため、創業者妻中込妙子が、子育ての傍ら国家三級整備士資格取得する。</p>	 <p>国家 3 級整備士となった妻妙子</p>
<p>昭和 54 年 1 月</p>	<p>妻妙子が国家整備士になったことで中込妙子が国家整備士になったことで、 工員数 2 級整備士（整備主任者）1 名、3 級整備士 1 名 合計 2 名となる。</p>	

<p>移転事業拡大</p> <p>昭和 57 年 11 月</p>	<p>山梨県中巨摩郡敷島町大下条字泉尻 488-1 現在の地に工場拡張移転、</p> <p>屋号：協立自動車工業に変更普通自動車分解整備事業取得、従業員採用により工員数 2 級整備士（整備主任者）1 名、二級整備士 1 名、3 級整備士 1 名 合計 3 名体制となる。</p>	 <p>移転当時の新工場内</p>
<p>後継者について</p>	<p>創業者の子中込智裕が自動車販売会社甲斐日産モーターで 7 年半の整備士とフロントマンの勤めを経て加入。国家二級整備士、自動車検査員資格、損保普通資格、日産一級テクニカルアドバイザー資格等取得。</p> <p>また、甲斐日産モーターの代表として日産全国サービス技術大会に出場、規模別優勝などした。</p>	 <p>日産自動車全国サービス技術大会</p>  <p>規模別優勝</p>  <p>日産一級資格</p>

<p>後継者継承</p> <p>平成 12 年</p>	<p>後継者中込智裕加入により、工員数2級整備士（整備主任者）2名、二級整備士1名、3級整備士1名合計4名体制なる。</p> <p>自動車診断のハイテク化に対応して外部診断機 HITACHI HDM2000導入</p>	 <p>改装前の工場の面影</p>  <p>HITACHI HDM2000</p>
<p>平成 14 年</p>	<p>このころより自動車販売のより一層の強化が図られる。</p> <p>ウェブサイト: 協立自動車工業ホームページ開設 http://park5.wakwak.com/~kyo-ritsu/</p> <p>タジマー新多助コンピューター整備システム導入（顧客管理、見積、精算業務など電子化）</p> <p>WEBサイトのコンテンツの内容の確保と整備技術向上の一環として後継者がレストア（古い車両の大掛かりな修復作業）の修行に積極的に取り組む</p>	  
<p>店舗改装</p> <p>平成 15 年 6 月</p>	<p>SUZUKI制定外装の新車展示場、商談スペースオープン。</p> <p>スズキ展示会を開催するなどスズキ車をメインに新車中古車販売の強化を図る。</p>	 <p>スズキ新車展示場</p>  <p>屋外展示場に SUZUKI 外装</p>

平成 16 年 11 月	スズキ車の販売実績が実り、スズキ株式会社よりSUZUKI副代理店資格を取得、地域の有力販売店として認められる。	
平成 18 年	山梨県下総代理店の山梨スズキ販売より永年取引授与する。その他、スズキ関連の賞も多く受賞する。	
平成 19 年 1 月	山梨日日新聞社発行雑誌「ザやまなし」より取材を受け紙面に掲載される。	 

WEB ブラウザでは写真をクリックすると拡大します。

平成 20 年 3 月	<p>スズキ取扱店のランドマークとして、Sマークのサインポール(大型屋外広告塔)が設置される。</p> <p>スズキ大型モニター販売支援システム(SOMS)導入</p>	 
平成 20 年 5 月	<p>新規従業員採用により工員数2級整備士(整備主任者)2名、二級整備士2名、3級整備士1名、合計5名となる。</p> <p>SUZUKI展示商談会など、イベントを定期開催</p>	 
平成 21 年 8 月	<p>創業者中込協男永眠(享年72歳)創業者の子中込智裕が2代目店主となる。</p> <p>工員数2級整備士(整備主任者)1名、二級整備士2名、3級整備士1名の合計4名となる。</p>	
平成 22 年	<p>ジムニー40周年を記念して、ジムニーオリジナル未改造車限定のミニイベントを開催。</p> <p>個性あるスズキ車のユーザー様を集めたレジャーイベント開催。</p>	 

平成 22 年	次世代自動車やハイブリッド車各社国産車に対応すべく診断機TMP1000コードリーダープラス導入	 
平成 24 年 5 月	葦崎警察署と葦崎交通安全協会より感謝状が授与される。	
平成 25 年	スズキ車専用の最新診断システムSDT-II 診断システム導入。	 
平成 26 年 6 月	定年退職者に伴い工員数二級整備士(整備主任者)1名、二級整備士1名、三級整備士1名の合計3名となる。	
平成 28 年 12 月	スズキ株式会社より、鈴木修会長が来県され、スズキ販売店の集いに招かれる。	

平成 30 年 10 月	第22回山梨県自動車整備技能大会に店主中込智裕が出場し、敢闘賞を受賞するとともに、選手を選出した当店に感謝状が贈られる。	